

第1回 国道246号渋谷駅周辺整備に関する事業推進会議 開催概要

■日時 令和7年12月～令和8年1月（持ち回り形式開催）

■出席者

【委員長】 日本大学 名誉教授 岸井 隆幸

【委員】 成蹊大学 経済学部 名誉教授 井出 多加子

東京都 建設局道路建設部計画課統括課長代理(企画担当)工藤 勝蔵

国土交通省 関東地方整備局 東京国道事務所 事務所長 本田 卓

(※敬称略)

【事務局】 国土交通省 関東地方整備局 東京国道事務所 計画課、工務第一課

■議事

1. 事業概要
2. 今後の整備と課題（国道拡幅）
3. 事業費の見直し

■報告事項

- ・2030年度に渋谷駅および駅を中心とした歩行者ネットワークが概成を迎えることに合わせ、一般国道246号渋谷駅周辺整備についても、周辺事業との調整を図りつつ事業完成を目指すため、「国道246号渋谷駅周辺整備に関する事業推進会議」を設置する。本会議では、同事業に係る諸課題への対処等について、専門的立場から意見をいただくことを目的とするもの。
- ・国道246号渋谷駅周辺整備事業については、これまで歩行者空間の不足や動線の不連続といった課題を解消するため、まちづくりと連携しつつ、地下歩道や歩道橋の整備を進めてきた。
- ・これから国道の拡幅整備に着手するにあたっては、沿線開発事業との工事重複の調整や、連携したデザインによる沿道環境整備を行わなければならないこと。加えて、工事中の円滑な歩行者誘導を図るための仮設サイン計画の立案などの課題がある。
- ・事業費の見直しについては、工事着手後の地盤条件の変更や昨今の物価高

騰等により、当初事業費 602 億円に対して約 150 億円増加し、約 752 億円となる見込みであること。

■主なご意見

- ・まちづくりと連携した歩道・照明のデザイン、工程管理など、沿道環境整備について周辺事業と十分に調整しながら進めること。
- ・今後の工事の推進にあたり、安全に工事を進めること。
- ・案内サインについて、ハチ公広場のような誰にでもわかりやすい場所で案内を行うこと。
- ・物価高騰の影響等により事業費がさらに増加する可能性を踏まえ、引き続きコスト縮減に努めるとともに、増額が見込まれる段階で報告すること。

—以上—

事業概要(国道246号渋谷駅周辺整備)

国道246号渋谷駅周辺整備は、駅周辺における歩行者空間不足や、不連続な歩行者動線などの問題を解消するため、関連する鉄道事業、駅街区事業等とともに、地下歩道・歩道橋の整備により、公共交通機関への乗り継ぎ利便性の向上、歩行空間のバリアフリー化・快適性向上を行うとともに、国道246号の拡幅を行うことにより、交通渋滞の緩和・交通安全性の向上を図り、交通結節点の機能を強化する事業。

- 目的**
- 歩行空間のバリアフリー化、快適性向上
 - 交通混雑の緩和
 - 交通安全の確保

計画概要

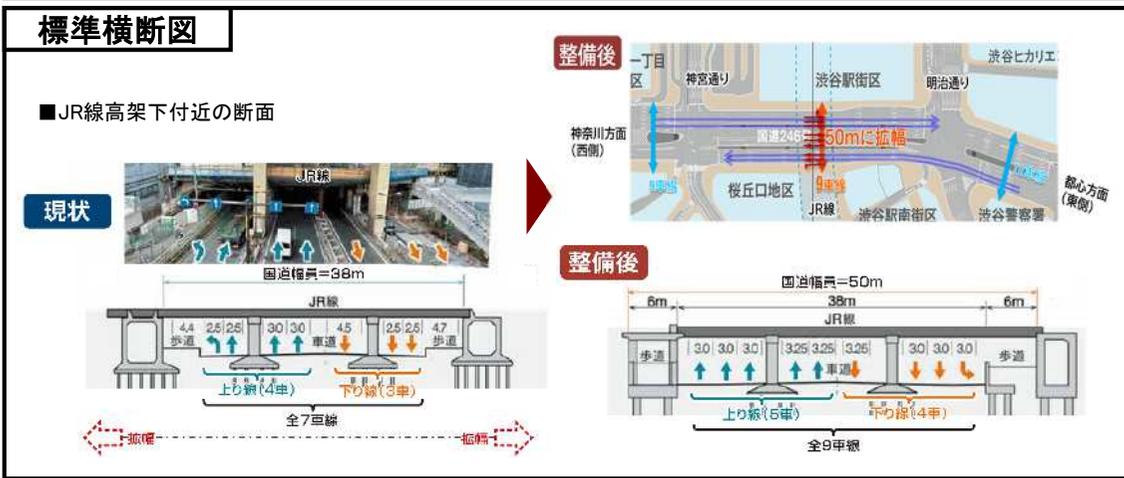
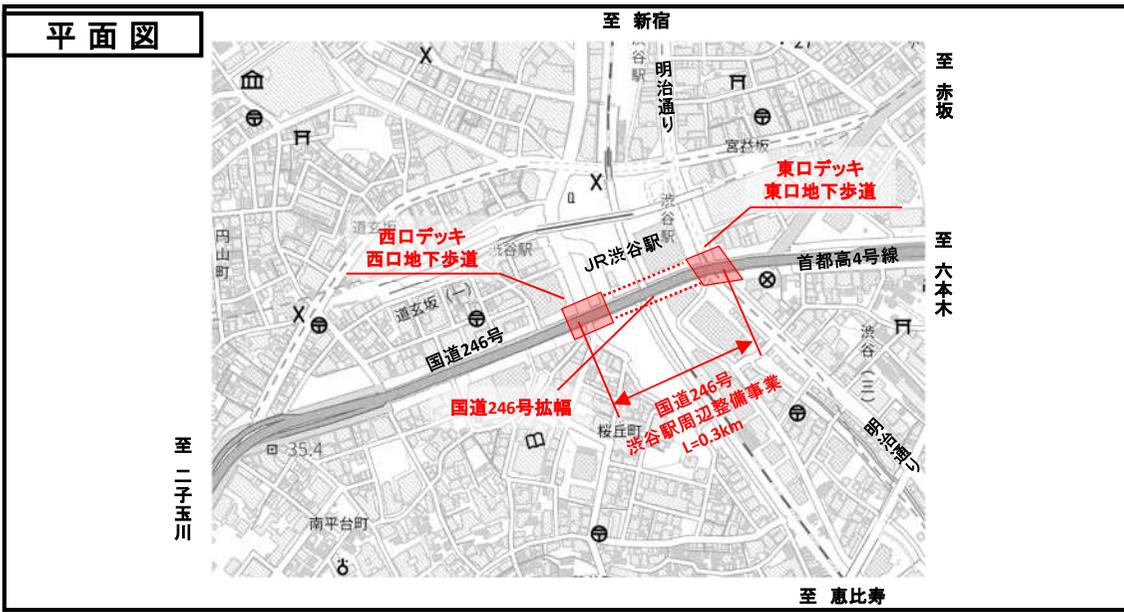
事業区間：自)東京都渋谷区渋谷三丁目
 至)東京都渋谷区桜丘町

計画延長・幅員：延長0.3km・幅員50.0m(道路拡幅部)

車線数：9車線(道路拡幅部)

事業化：平成14年度

全体事業費：約752億円



(意見①) 国道の歩道や照明について

→まちづくりと連携したデザインとする意見があった



※【出典】R7.5.9渋谷駅街区共同ビル事業者記者発表

図1：まちづくりと連携したデザインイメージ

(意見②) 国道工事の工程管理について

→まちづくりと一体となり工程管理を進める意見があった



写真1：まちづくりと一体となり進める工程調整イメージ（渋谷駅中心地区工事・工程協議会の例）

(意見③) 工事中の歩行者誘導について

→まちづくりと連携して、サインを統一化する等歩行者にわかりやすいものとする意見があった



写真2：現在の歩行者へのサイン等（渋谷駅周辺の工事中仮設サインの例）

事業費の見直しの概要

- ① 原材料の高騰や各建設資材、労務費等が高騰
 - ・物価高騰の影響による増額
- ② 工事着手後の地盤条件の変更
 - ・工事着手後の地盤条件変更に伴い、新たな地盤改良等の対策の追加による増額

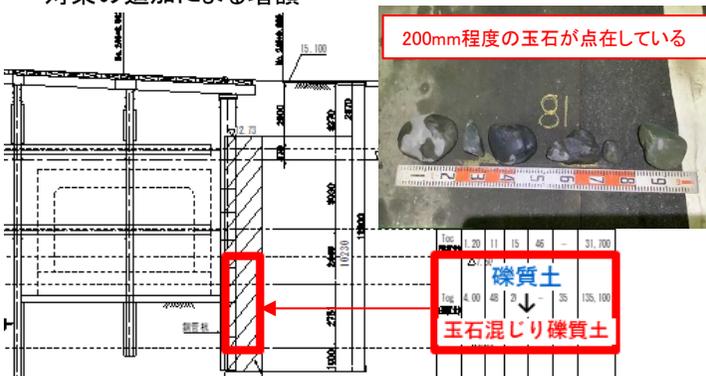


図2：想定されない玉石出土による対策工の追加（西口地下歩道の例）

- ③ 周辺開発事業や交通管理者との調整
 - ・周辺開発事業者および交通管理者との調整の結果、歩道橋（デッキ）工事において、桁組立作業場所を変更した。これにより作業場所が狭小となり、桁組立方法および架設サイクルの見直しに加えて、架設箇所までの新たな運搬が必要となったことによる増額

○ 事業費増額の内訳
 ・現行事業費602億円から約150億円の増額

項目	増額
① 原材料の高騰、建設資材、労務費等の高騰	約150億円
② 工事着手後の地盤条件の変更	
③ 周辺開発事業や交通管理者との調整	

表：事業費増額の内訳

(意見④) 事業費の見直しについて

→今後工事を進める中で物価高騰の影響等により事業費が増える可能性もあるため、引き続きコスト削減に努めるとともに、増額が見込まれる段階では情報提供する意見があった



写真3：周辺開発事業等と調整し施工した歩道橋（デッキ）（渋谷駅西口歩道橋（デッキ）の例）